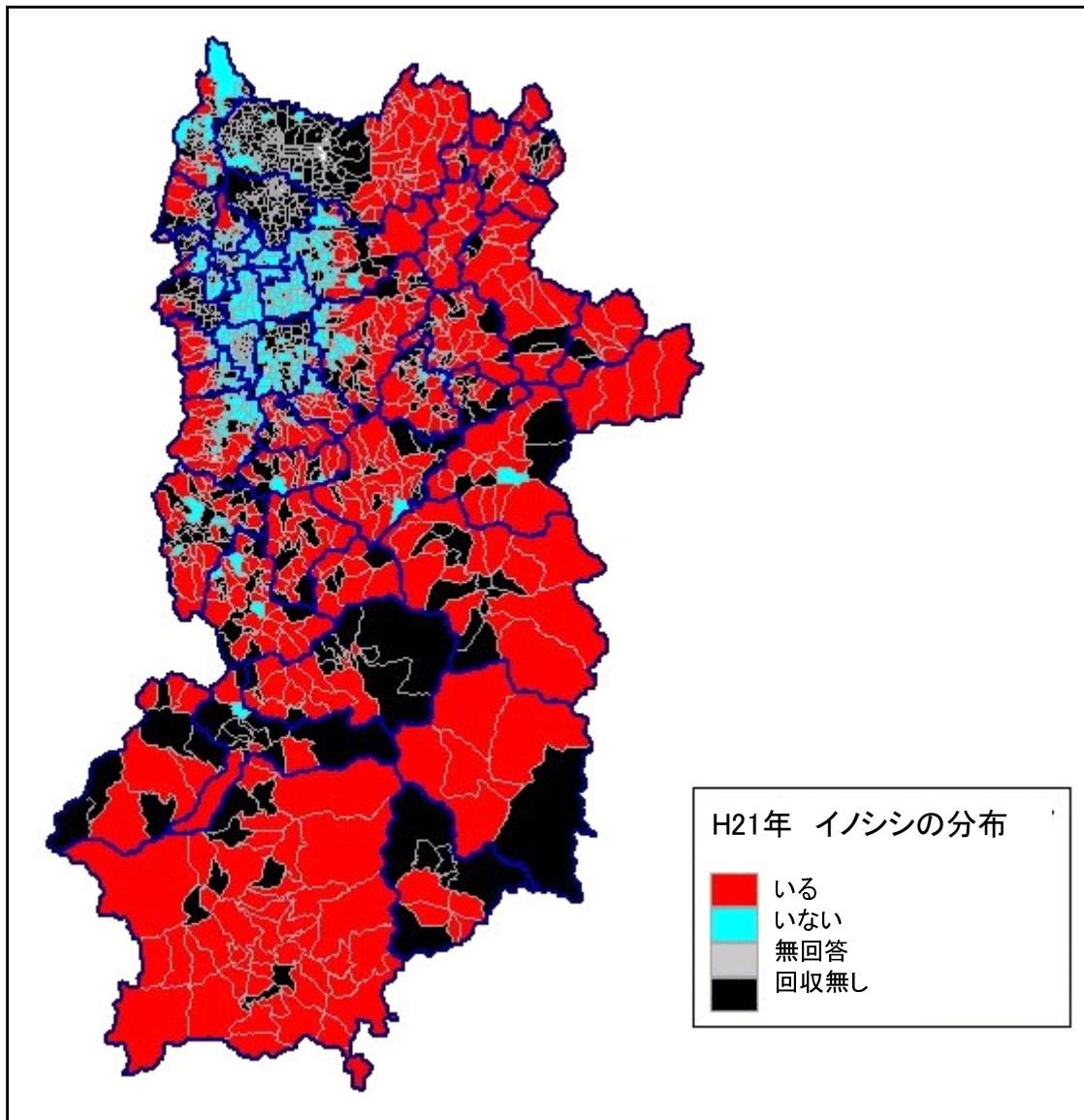


4、イノシシ農林家集落アンケート調査(獣害アンケート調査)

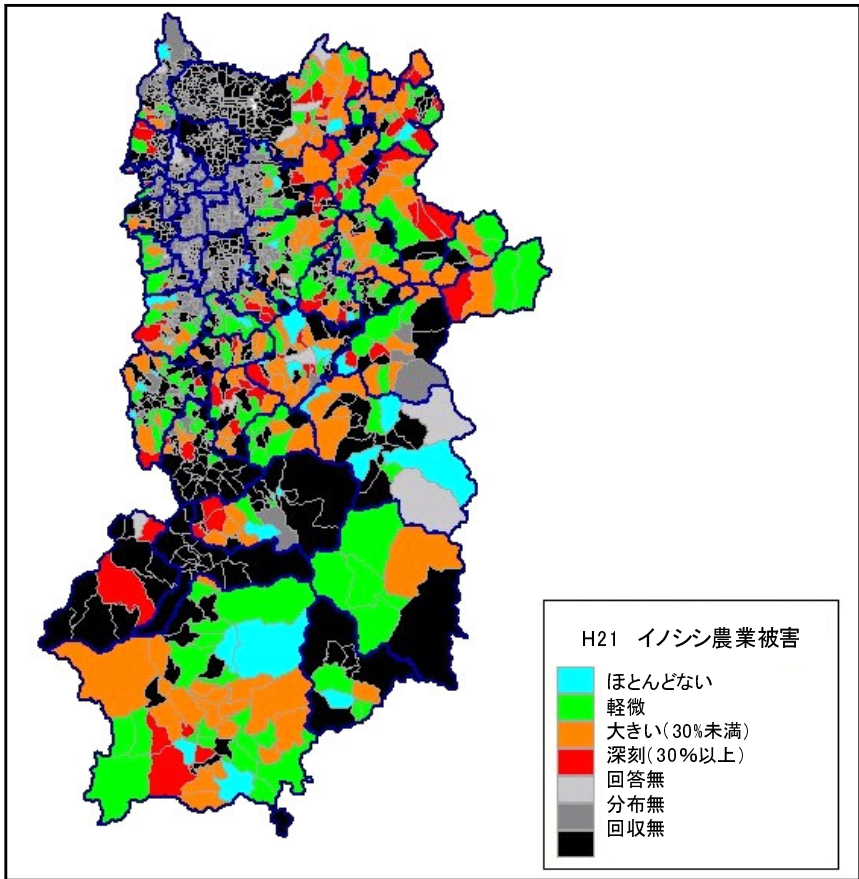


凡例 図中 青線 市町村界 市町村界内側の線 大字・地区界
なお、この市町村界、大字・地区界の凡例は次項以降の図も同様である

図は平成21年度の農林業集落アンケート調査による、イノシシの分布である。

農業集落、林業集落の両方またはいずれかでイノシシがいると回答があった場合にいるとしている。回収無しには既に人が住んでいない集落も含まれている。

県内の広い範囲より、イノシシが分布しているとの回答があり。いないと回答が多いのはイノシシが生息できないと思われる北西部の一部(奈良盆地)からが多い。

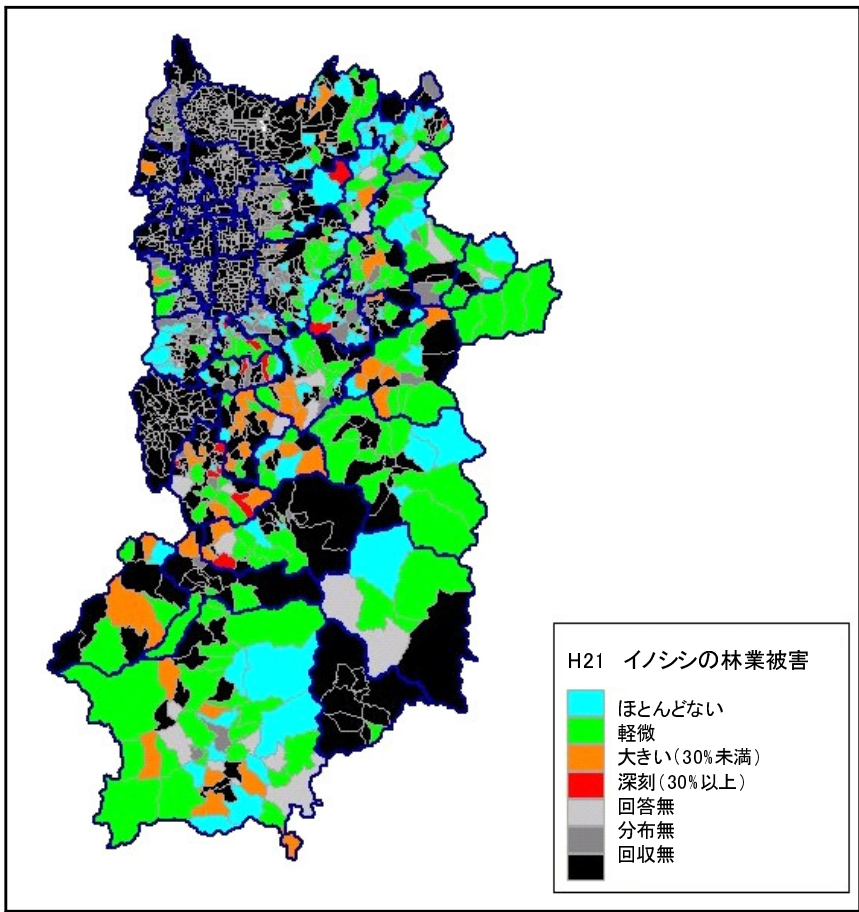


○H21 農業被害

左図は平成21年度の農業集落アンケートによる、農業被害の大きさの意識調査の結果である。

イノシシが分布しており、かつ回答のあった471集落の内訳は下記の通りである。

ほとんど無い	36集落 (7.6%)
軽微	201集落 (42.7%)
大きい	156集落 (33.1%)
深刻	78集落 (16.6%)
計471集落	



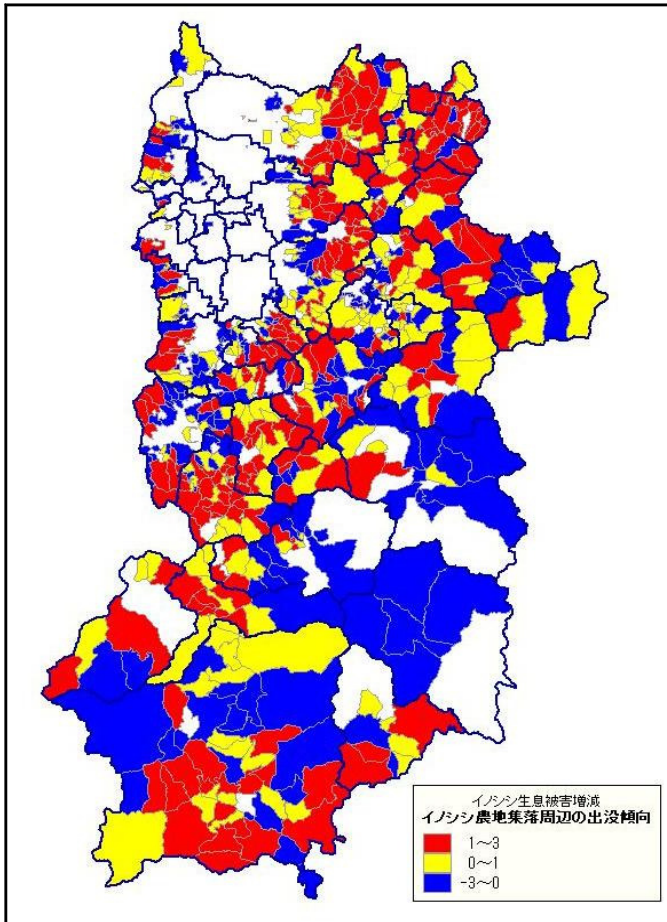
○H21イノシシ林業被害

左図は平成21年度の林業集落アンケートによる、林業被害の大きさの意識調査の結果である。

イノシシが分布しており、かつ回答のあった322集落の内訳は下記の通りである。

ほとんど無い	102集落 (31.7%)
軽微	157集落 (48.8%)
大きい	50集落 (15.5%)
深刻	13集落 (4.0%)
計322集落	

農・林業アンケートによるイノシシの被害意識の増減



○イノシシの農地集落周辺への出沒動向

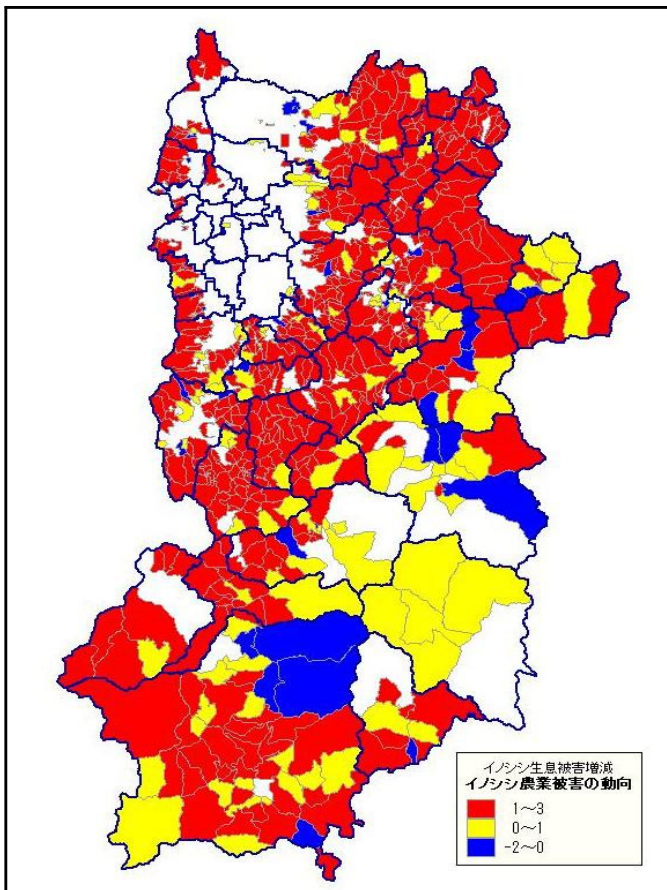
左図はイノシシの農地集落周辺への出沒の3年間の動向である。

毎年集落毎に農地・集落周辺へのイノシシの出沒を1. よく見る、2. たまに見る、3. あまり見ないの区分で回答を得ている。そして、1. よく見る、2. たまに見る、3. あまり見ないの回答を、「よく見る」を+1、「たまに見る」を±0、「あまり見ない」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、プラスになる場合（つまりよく見るが多い場合）は赤色で、0になる場合（つまりたまに見るになる場合）は黄色で、マイナスになる場合（つまりあまり見ないが多い場合）は青色で各集落を色つけた。3年間で1度でも回答があった場合を集計している。

空白は調査した3年間、イノシシがない、無回答、集落に人が住んでいないのいずれかである。

イノシシの農地集落周辺への出沒は、県北東部から県中部、県南西部にかけて多い傾向にあるが、県の東部や南東部等で少ない傾向にある。なお、回答を得た集落のうちよく見る、たまに見る、あまり見ないの割合はほぼ同じであった。

赤	よく見る	265集落 (37.6%)
黄	たまに見る	222集落 (31.5%)
青	あまり見ない	218集落 (30.9%)
回答数		705集落



○イノシシ農業被害動向

左図はイノシシによる農業被害の意識の3年間の動向である。

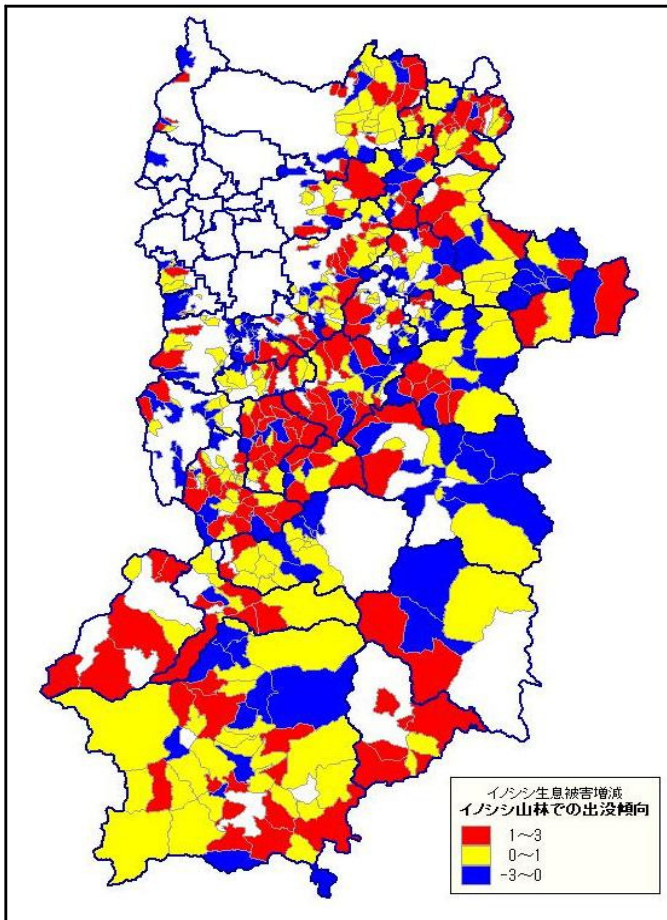
毎年集落毎に農業被害を前年度より1. 増えた、2. 変わらない、3. 減ったの区分で回答を得ている。

そして、「増えた」を+1、「変わらない」を±0、「減った」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、プラスになる場合（つまり増えている場合）は赤色で、0になる場合（つまり変わらない場合）は黄色で、マイナスになる場合（つまり減った場合）は青色で各集落を色つけた。3年間で1度でも回答があった場合を集計している。

空白は調査した3年間、イノシシがない、回答がない、集落に人が住んでいないのいずれかである。

イノシシによる農業被害の意識は、県東部や県南東部の一部では減ったとなっているところもあるが、全体的には増えており、回答を得た集落のうち76%が増えているという意識であった。

赤	増えた	539集落 (76.0%)
黄	かわらない	136集落 (19.2%)
青	減った	34集落 (4.8%)
回答数		709集落



○イノシシ山林・奥地森林での出没動向

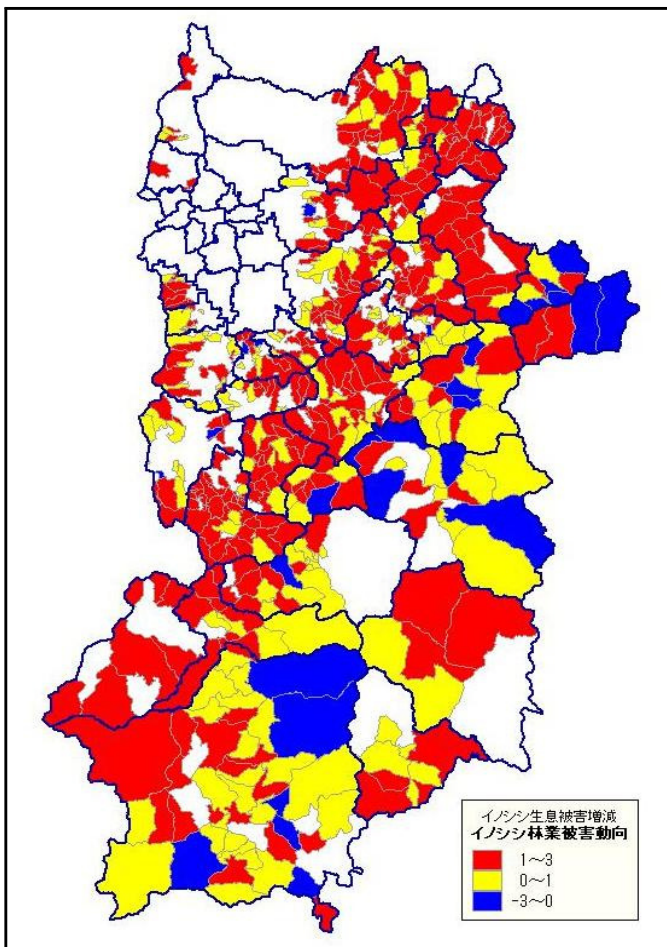
左図はイノシシの山林・奥地森林での出没の3年間の動向である。

毎年集落毎に山林・奥地森林でのイノシシの出没を1. よく見る、2. たまに見る、3. あまり見ないの区分で回答を得ている。そして、1. よく見る、2. たまに見る、3. あまり見ないの回答を、「よく見る」を+1、「たまに見る」を±0、「あまり見ない」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、プラスになる場合(つまりよく見るが多い場合)は赤色で、0になる場合(つまりたまに見るになる場合)は黄色で、マイナスになる場合(つまりあまり見ないが多い場合)は青色で各集落を色つけた。3年間で1度でも回答があった場合を集計している。

空白は調査した3年間、イノシシがいない、無回答、集落に人が住んでいないのいずれかである。

イノシシの山林・奥地森林での出没は、農地集落周辺と概ね同様な傾向があるが、農地集落周辺では少なかった県東部・南東部でもやや多いようである。なお、よく見る、たまに見る、あまり見ないの割合も農地集落周辺と同様に概ね同じ割合であった。

よく見る	174集落 (32.2%)
たまに見る	198集落 (36.6%)
あまり見ない	169集落 (31.2%)
全541集落	



○イノシシ林業被害の動向

右図はイノシシによる林業被害の意識の3年間の動向である。

毎年集落毎に林業被害を前年度より1. 増えた、2. 変わらない、3. 減ったの区分で回答を得ている。そして、「増えた」を+1、「変わらない」を±0、「減った」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、プラスになる場合(つまり増えている場合)は赤色で、0になる場合(つまり変わらない場合)は黄色で、マイナスになる場合(つまり減った場合)は青色で各集落を色つけた。3年間で1度でも回答があった場合を集計している。

空白は調査した3年間、イノシシがいない、回答がない、集落に人が住んでいないのいずれかである。

イノシシ被害の大きさでは軽微なものが多いが、増減については全般的には増えており、回答を得た集落のうち約62%が増えたとなっている。なお、県東部・南東部では減ったとしているところもある。

による林業被害の意識は、

増えた	338集落 (62.1%)
変わらない	176集落 (32.4%)
減った	30集落 (5.5%)
全544集落	